青少年育成センターだより

第２１７号　２０２５．１１．１

防府市教育委員会生涯学習課

青少年育成センター

０８３５－２５－２９２２

ノーベル賞受賞について考える

今年、日本から２人のノーベル賞受賞者が生まれました。大阪大学特任教授の坂口志文さんが生理学・医学賞を、京都大学特別教授の北川進さんが化学賞を受賞されました。日本にとって本当にうれしい受賞となりました。（ちなみに、２０２５年度までの日本のノーベル賞受賞者は、個人では３０人です。そして、昨年は「日本被団協」が平和賞を受賞したので日本にとって２年連続の受賞となります）

坂口さんが免疫を制御する細胞の研究を始められたのが３０年以上前、成果が正当に評価されるまで２０年の年月が過ぎたうえでの受賞だったそうです。また、北川さんの研究も３０年以上も前からの研究の結果なのだそうです。研究を始めた当時は、他の研究者から否定されたり、批判をされたりしながらも、それでも上手くいくことを信じ、取り組まれたうえでの成果でした。大きなことを成し遂げるということは、本当にたくさんの苦労があるのでしょう。

受賞後の新聞の記事「朝日新聞・毎日新聞（１０月７日・８日・９日)」に、こどもに聞かせたい言葉がたくさんありましたのでここで紹介します。

【坂口さん】

・「うれしい驚き。この研究がもう少し人の役に立つと、何らかのごほうびがあるかもしれないと思っていた。驚きとともに光栄です」（受賞会見）

・少年時代は「子ども向けの文学全集なんかを読んでいた」という。

・「何かを成し遂げるには時間がかかると教えている。本当に一生をかけるものを見つけるには、考え抜くことが必要です」と語る。

・子どもたちに対しては、「世の中にはスポーツでもサイエンスでも興味をそそることはたくさんある。そういうものに興味を持ち続け、大切にしてほしい。気がついたら、非常におもしろい境地に達している」と自身の経験を踏まえ、エールを送った。

【北川さん】

・「感激している。私がやっているのは新しい材料づくり。新しいことへのチャレンジ、新しいものをつくっていくことを３０年以上、楽しんできた。同僚、学生の皆さんに感謝しています。理解して支えてくれた家族にも感謝しています」（受賞会見）

・これまでの苦労は「数限りなくあった」。「それでも気持ちが折れることなく、「（科学者には）興味を持って挑戦するという姿勢、ビジョンが必要だ」と地道に研究を続けてきた。「うまくいかないことはいっぱいある。ケミストリー（化学）はチームプレーが重要」だと語り、研究室の仲間たちに感謝の意を示した。

・子どもたちへのメッセージを問われ、「幸運は準備した心に宿る」という細菌学の大家・パスツールの言葉を出した。「いい先生、友だち、付き合い。それはある日、突然あたるものではない。いろんな経験を大切にすることで花開く」と話した。

偉業を成し遂げるための秘訣がこれらの言葉の中にあるようです。ぜひ、家庭で話し合ってみてください。こどもの行動が変わるかもしれません。

青少年育成センター指導員　藤村